

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report & Column [報告&コラム] -----	3
Information [ご案内] -----	4

NEXT Exhibition 次回展示

|| 企画展「深溝松平家展—家忠・忠利・忠房と刈谷—」

開催日 2022年10月8日(土)～11月20日(日)

深溝松平家4代家忠、5代忠利、6代忠房は水野家や刈谷と深い縁がありました。家忠は水野忠分の娘を妻とし、その子忠利が跡を継ぎました。忠房は忠利の死後、その跡を継いですぐ刈谷藩主となり、直接刈谷を治めています。忠房はその後島原藩主となりますが、松平文庫として同家に伝わる蔵書群や島原・深溝の両本光寺に寄進された貴重な品々から、水野家や刈谷との関係について掘り下げます。



▲関ヶ原合戦絵巻（館蔵・部分）慶長5年伏見城の戦い

※記載内容は予告なく変更することがあります。

資料紹介 「私覚書」

深溝松平家6代の忠房は、寛永9年（1632）8月から慶安2年（1649）2月の転封で丹波国福知山藩主となるまでの約16年半、刈谷藩主としてこの地を治めた人物です。忠房は好文大名として知られ、和歌や能楽を好み、書籍の収集を趣味としていました。また筆まめで、祖父家忠、父忠利に倣^{なら}ってか公務日誌を書き残して、これは福知山の後に藩主を務めた肥前国島原の地に残されており、現在、肥前島原松平文庫（長崎県指定）に収められています（一部は、島原市^{たけしま}猛島神社蔵で島原市指定文化財）。



▲私覚書（当館蔵）

今回紹介する「私覚書」は日記・日誌ではありませんが、忠房の公務の一端をうかがい知ることのできる資料です。この覚書には、忠房が福知山藩主時代に江戸幕府の老中衆とやり取りをした往復書状の控えや藩領内で行った切支丹取り締まり関係、洪水への対応などの政務記録や、家臣・家中衆に関することが記載されています。平成13年に当市が古書店より購入したもので、秋の深溝松平家展でも展示します。

以下では、この「私覚書」の中から忠房の公務の一端を覗いてみたいと思います。

忠房が入封した慶安2年の島原藩は、大雨による洪水の被害を受けました。江戸の留守居が江戸幕府老中に報告した覚書には、次のように書かれています。

去ル廿七日之晩方大雨降、廿八日辰ノ刻水出城廻町下之惣堤巳ノ刻方水越申候付、主殿頭罷出家中町人迄召連堤圮土俵ニ而防雨、堤ハ切不申候、

福知山城は東側を流れる由良川を天然の堀とする要害として築されましたが、7月27日の晩に大雨による洪水被害を受けました。28日には増水して城下の惣堤を越える被害が出ました。忠房が家中・町人らを引き連れて補強をしたので決壊はしませんでした。それでも洪水の被害は城下町の各所で発生しており、丹後口など城下町の北側には水が入り、侍屋敷の床上2～5尺ほどの浸水被害がありました。さらに城下町西側方面の木村口・榎原

口などでは家に水が入って屋敷や塀などが破損し、潰れてしまった家もあったようです。作物の被害も大きく、川通りの知行所では1万4～5千石余りが押し流



▲丹波国福知山平山城絵図

されたほか、（国立公文書館蔵）「永荒」（耕作不能地）となるところも出てしまいました。

これに対し忠房は、自ら老中に報告した後、復旧作業として普請を行いました。その後も、忠房から老中に損害（「福知山構図之覚」）や普請の状況（「九月朔日福知山洪水ニ而破損申覚」）が報告されました。当時、城の普請は「武家諸法度」により補修であったとしても幕府の許可なく行うことができませんでした。そのため忠房は、洪水被害からの復旧作業のため普請をすることをきちんと幕府に説明していたのです。忠房は、洪水という緊急事態にも迅速な対応をしていますが、その際も幕府の取り決めに則った正攻法で復興・復旧を進めていたことがわかります。

この後忠房は、加増・転封により肥前国島原藩6万5900石を治めることとなります。さらに寛文12年（1672）には天草郡1300石を加増され、長崎奉行の監督と西国大名の監視などを命じられました。忠房が幕府から重用された理由は、信頼の置ける譜代大名であることが大きいのですが、その信頼が生まれた背景には、着実な対応を進める忠房の性格と、刈谷や福知山藩主時代から積み上げてきた実績も買われたことと推察されます。そして島原藩主となって以降は、藩政改革や寺社政策、検地などを実施し、明治まで代々続く島原藩主深溝松平家の礎を築いていったのです。

（当館学芸員 山下智也）

REPORT 報告

企画展「伊勢物語とかきつばた」

2022年4月23日(土)～6月5日(日)

本展では「かきつばた」に着目し、この花が広く知られる契機となった「伊勢物語」9段（東下り）をメインに構成しました。

伊勢物語で登場する八橋は歌枕の地として有名になり、絵画や漆工（工芸品）で描かれるだけでなく、能・狂言といった芸能の分野でも取り上げられるようになります。ここでは絵画作品として国有品の「紙本著色八橋図〈尾形乾山筆〉」〔重要文化財〕、工芸品として蓋裏に八橋が描かれている「富士見業平料紙箱」（齋宮歴史博物館蔵）を展示しました。また、能の演目「杜若」が描かれた「能絵鑑」（国立能楽堂蔵）によって、伊勢物語の世界観の奥深さを紹介しました。



▲ 投扇興体験の様子

さらに伊勢物語が江戸時代のベストセラーであったことを示す資料として、パロディ本に注目しました。パロディ史上に名高い「仁勢物語」（西尾市岩瀬文庫蔵）の他、「風俗伊勢物語」（慶應義塾図書館蔵）などの多くに伊勢物語の八橋をオマージュした章段が見られ、江戸時代の人々にも八橋やかきつばたがよく知られていたことがわかりました。

関連イベントとして講演会「九段を中心につなぎ読む『伊勢物語』の世界」（講師：田口尚幸氏）と「伊勢物語の価値を高めた江戸時代」（講師：渡邊卓氏）、参加型イベントとして「江戸時代の雅な遊び 投扇興体験」を開催しました。

最後になりますが、本展にご協力いただいた方々にお礼申し上げます、報告といたします。

（当館学芸員 長澤慎二）

COLUMN コラム

収蔵品よもやま話 せきぞく げろいし 石鏃と下呂石



▲ 下呂石製の石鏃



▲ 下呂石の原石

刈谷市にある縄文時代晩期（約3,000年前）の遺跡では、石鏃がたくさん出土しています。石鏃とは、矢じりとも呼ばれる矢の先端に装着された狩猟具で、縄文時代を代表する石器のひとつです。刈谷市で出土する晩期の石鏃の特徴は、下呂石という石を主な石材として利用していることです。下呂石は、名前のとおり下呂温泉で有名な岐阜県下呂市の湯ヶ峰において産出する黒色の流紋岩で、ハンマーで打ち割るとガラスのように鋭く割れることから、旧石器時代から弥生時代にかけて石器の材料として利用されています。遺跡から出土した下呂石製石器に残る原石の表面を見ると、河川によって流され、丸くなった円礫状を呈するものが多く、そのような下呂石を利用していることがわかります。また、下呂石は刈谷市やその周辺で拾うことができないため、縄文時代の人々による交換などによって運ばれてきたと考えられ、縄文時代には遠く離れた地域との交流も盛んに行われていたことがわかります。

（当館学芸員 野村啓輔）

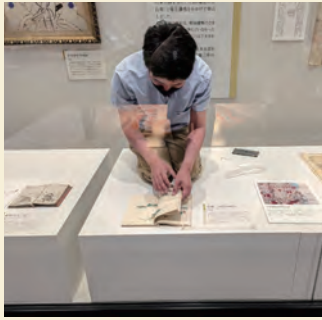
INFORMATION ご案内

歴史ひろばの展示替え

当館では歴史ひろば（常設展示室）の展示替えを3、4か月ごとに行っています。

今回は7月に展示替えを行いました。

駿河・遠江・三河の3か国を1枚に表した絵図「駿遠参全図」などを展示しています。



新規刊行物

刈谷の縄文遺跡である中手山貝塚の発掘調査報告書を刊行しました。

発掘調査の記録や出土遺物の図版などを掲載しています。

定価：1,500円

販売場所：当館受付



かつなりくん缶バッチ

カプセルトイコーナーにかつなりくん缶バッチが登場しました。

どのかつなりくんに出会えるかはお楽しみです。

全6種（当たり付き！）
各200円

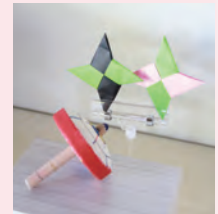


簡単工作（10～12月）

- ・手回しごま 300円
- ・折り紙「しゅりけん」 無料

土日祝日開催
受付16時30分まで

◎ポイントカード実施中◎
ポイントを集めてグッズと交換しよう！



カレンダー

10	日	月	火	水	木	金	土	11	日	月	火	水	木	金	土
							1				1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8		6	7	8	9	10	11	12	
9	10	11	12	13	14	15		13	14	15	16	17	18	19	
16	17	18	19	20	21	22		20	21	22	23	24	25	26	
23	24	25	26	27	28	29		27	28	29	30				
30	31														

2023	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

■ 深溝松平家展－家忠・忠利・忠房と刈谷－

■ 休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道 JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バス 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車 伊勢湾岸自動車道
名古屋南IC・刈谷スマートIC・
豊田南IC から約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、またはTwitterをご確認ください。

※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。